

平成30年度実施施策に係る事前分析表

(文部科学省 30-12-3)

施策名	文化財の多言語解説の充実
施策の概要	訪日外国人旅行者の地域での体験滞在の満足度を向上させるため、文化財に対して多言語で先進的・高次元な言語解説を整備する事業を、観光施策と連携させつつ実施する。

達成目標 1	外国人等の意見を踏まえた、先進的・高次元な解説版等の多言語化や訪日外国人向けの多言語による解説ボランティア等の育成を支援								
達成目標 1 の設定根拠	文化財活用・理解促進プログラム 2020 (平成 28 年 文化庁文化財部) の I. 世界遺産や日本遺産、文化芸術活動など、地域の文化資源の一体的な整備・活用、国内外に向けた情報発信 (解説・多言語化を含む) への支援 の【わかりやすい解説・多言語化】の基本施策を踏まえ設定。								
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	
	年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	32 年度		
①多言語整備を実施した文化財を中核とした観光拠点件数 (件)	—	—	—	—	—	—	200	/	
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			
	目標値の設定根拠	文化財活用・理解促進戦略プログラム 2020 (文化庁策定) において、2020 年までに文化財を中核とする観光拠点を全国で 200 拠点程度整備するとしているため。							
	指標の根拠	—							
施策・指標に関するグラフ・図等									
・測定指標 1 : 平成 30 年度文化庁調べ									
達成手段 (事業)									
名称 (開始年度)	平成 29 年度予算額 (執行額) 【百万円】	平成 30 年度当初予算額 【百万円】	行政事業レビューシート番号						
文化財等の多言語解説整備支援事業 (平成 30 年度)	—	500	新 30-0019						
達成手段 (法令改正・税制措置)									
名称 (開始年度)	概要						担当課 (関係課)		
外国人観光旅客の旅行の容易化等の促進による国際観光の振興に関する法律の一部を改正する法律 (平成 30 年度)	観光立国推進閣僚会議決定等を踏まえ、国際観光旅客税の税収を、①ストレスフリーで快適に旅行できる環境の整備、②我が国の多様な魅力に関する情報の入手の容易化、③地域固有の文化、自然等を活用した観光資源の整備等による地域での体験滞在の満足度向上の 3 つの分野に充当する旨を規定するもの。						観光庁		
平成 29 年度事前分析表からの変更点	—								

施策の予算額・執行額					
(※政策評価調書に記載する予算額)					
		28年度	29年度	30年度	31年度要求額
予算の状況 【千円】 上段：単独施策に係る 予算 下段：複数施策に係る 予算	当初予算			500,000 ほか復興庁一括 計上分 0 <0> ほか復興庁一括 計上分<0>	0 ほか復興庁一括 計上分 0 <0> ほか復興庁一括 計上分<0>
	補正予算			0 ほか復興庁一括 計上分 0 <0> ほか復興庁一括 計上分<0>	
	繰越し等				
	合計				
執行額 【千円】					

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報
—

施策に関する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)		
名称	年月日	関係部分
明日の日本を支える観光ビジョン	平成 28 年 3 月 30 日	視点 1. 観光資源の魅力を高め「地方創生」の礎に ■「文化財」を、「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、そして活用へ

有識者会議での指摘事項	—
-------------	---

主管課（課長名）	文化庁 文化財部伝統文化課（高橋 宏治）
関係課（課長名）	—

評価実施予定時期	平成 3 4 年度
----------	-----------